

【資料 I】

教科種目名 << 音楽(音楽) >>

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料 II (音楽-3～音楽-5)を参照

発行者の略称	教出	書名	音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年において、仲間との遊びから音の強さや速さ、響きについて学習できるような題材が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「音のスケッチ」では子供のイラストの吹き出しにより、学び方の手順が示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、巻頭に掲載された様々な演奏家の言葉により、個性を尊重した表現の良さについて学ぶ機会が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、被災地での演奏経験を例に、人々を勇気づける音楽の力について考えさせる題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、協働活動を通してリズムを共感したり、音楽を楽しんだりできる題材が設定され、コミュニケーション能力の向上を図っている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「音のスケッチ」では音楽づくりや、音楽の構造について、仲間との対話を通して考える活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p><< 教科・種目共通部分 >></p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「学び合う音楽」の項目では、仲間と表現の工夫を深められるよう、学習の手順や話し合うテーマが例示されている。 □ 他教科との関連等について、歌唱・鑑賞活動の中で英語や算数などと関連させた題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動に関して「音楽のもと」「音楽を表すいろいろな言葉」では、表現や鑑賞の学習に活用するための「音楽の要素」に関する用語がまとめられている。 □ 日本の伝統音楽への関心を養うための基礎として、和太鼓の演奏法が掲載されている。また、わらべ歌についても紹介されている。 □ 体験活動に関して「音のスケッチ」では、音楽づくりの手順が示されている。また、指揮をすることで拍節感を感じ取る題材が設定されている。 □ 第1学年では幼児期に学んだ模倣や遊びの題材が設定されている。第6学年では、中学校の学習内容を「はってん中学」として示している。 □ 情報活用に関して、調べ学習の際に図書館やインターネットの活用を推奨しながら、その際のルールやマナーについて注意喚起している。 □ 発達の段階に応じたフリガナや、写真に重ねると説明が読める「透明シート」が学びの転換を可能にしている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「学びナビ」や「音のスケッチ」などの項目では、既習内容の振り返りができる。また、鍵盤ハーモニカの運指や音階の配色が区別されている。 <p><< 各教科・種目独自の観点 >></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 表現、鑑賞ともに第1・2学年での遊びなどの音楽と親しむ活動から、第5・6学年では思いや意図をもち、響きを感じ取る学習へと深まっていく。 □ 第3・4学年から伝統音楽の学習として祭囃子の鑑賞と、締め太鼓のリズムを体験できる。第5・6学年では箏や尺八から和楽器の響きを学び、篠笛の音色や奏法の学習へと発展させている。 □ 表現、鑑賞共に紙面右上に音楽の要素が示されている。巻末の「音楽のもと」には、音楽の要素をまとめて掲載している。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 主要部分と選択可能な部分の割合が明確に設定されている。一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、と系統立てて学習する構成である。 □ 題材名、新出事項、学習目標が、全学年を通じて同じ位置に掲載されている。巻頭には演奏家の特集が掲載されている。 □ 第1・2学年はA B判、第3・4学年以降はA 4判と区別している。裏面に「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪音楽(音楽)≫

※詳細については、資料Ⅱ(音楽-3～音楽-5)を参照

発行者の略称	教芸	書名	小学生の音楽
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年の楽譜には、音の高低やリズムを理解し易いように、折れ線で表した図形楽譜が掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、歌唱表現を工夫する為のヒントが、キャラクターの発言で導かれている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、演奏家の言葉により、音楽が社会で担っている役割や人と音楽との関係について考える題材が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、音楽による地域貢献から、音楽と社会との関わりについて、考えるきっかけとなる題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「仲間と楽しく」という仲間づくりの題材が設定されており、コミュニケーション能力の向上を図っている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、音楽づくりでは仲間との学びあいが示されており、遊びをとおした歌唱により、表現を交流させる活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しを持った学習ができるよう、巻頭に掲載された「音楽の木」によって学習内容の系統性が示されている。 □ 他教科との関連等について、外国語を取り入れた教材が各学年に設定されている。第1・2学年では軽い運動を伴った題材も掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動に関して、板書例と共に学習内容が示されている。表現や鑑賞の題材には、気づいたことや感じたことなどを記入する欄が掲載されている。 □ 日本の伝統芸能や和楽器、童歌について、文化的背景や歌詞の意味が説明されている。併せて関連する手遊びも掲載している。 □ 日本音楽の体験学習として、和楽器の口唱歌や民謡の節回しが紹介されている。また音程感覚を養うための身体表現も例示されている。 □ 第1学年では導入として幼児期に学んだ表現活動が掲載され、第5・6学年になると、中学生に向けた「美しく響く発声」についての掲載がある。 □ 情報活用に関して、もくじ右下に「指導者・保護者の皆様へ」としてインターネット使用の際には保護者と一緒に利用するという記載がある。 □ 発達の段階に応じたフリガナが記載されている。写真上の楽譜の背景を白地にするなど、視認性を高めている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学年間の積み重ねを意識した題材が設定されている。器楽でのリコーダーの運指については、演奏者目線で見られる図が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 表現は第1・2学年の歌詞のみの記載から、第5・6学年では読譜に沿った表現になる。鑑賞では第1・2学年の「リズム」から「楽器の音色」「構成の聴き取り」へと深まる。 □ 第3・4学年から祭囃子から締め太鼓の奏法の習得が設定され、第5・6学年では雅楽や箏の音色を鑑賞し、和楽器の響きを味わう学習へと発展させている。 □ 表現、鑑賞共に紙面右下には音楽の要素が示されている。巻末の「振り返りのページ」でも一覧で掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「音楽の木」では、全ての領域で学びの関連性が学年ごとに描かれている。また、一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、と系統的に学習する構成である。 □ 文字や背景の色調などにユニバーサルデザインが施されている。学習目標が左上に掲載される形で統一され、他の文字よりも大きく表示されている。 □ 判型はA4判で、紙面は白地を基調としている。裏面に「子どもたちが無理なく取り組める音域や難易度に配慮して、教材を選択・開発しています」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《音楽（音楽）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年の表現では、音の強さや速さ、響きについて日常の行動や遊びから学習する題材が設定されている。
教芸	「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年での表現・鑑賞では、音の高低や音色、リズムを理解し易いように図形楽譜が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、音楽づくりを学ぶ「音のスケッチ」での子どもの吹き出しが思考力、判断力、に関わる視点を提示している。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、歌唱表現を工夫する為のヒントが、キャラクターの発言で導かれている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各学年の巻頭では様々なジャンルの演奏家の言葉によって、文化の固有性と私たち個人の固有性についても考える機会が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、著名人のコメントによって、音楽が社会の中で担っている役割を知ること、私と音楽との関わりについて考える機会が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
教出	被災地での演奏経験などから、人々を勇気づける音楽の力について、考えるきっかけとなる題材が設定されている。
教芸	音楽による被災地での復興や地域貢献活動について考えることで、自己の生き方や社会への貢献について考えさせる題材が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
教出	仲間との協働活動を通してリズムを共感したり、音楽を楽しんだりする教材が取り上げられ、コミュニケーション能力の向上を図っている。
教芸	各学年の前半の題材は「仲間と楽しく」というテーマで設定され、コミュニケーション能力の向上を図っている。 (第2学年は「〇〇しよう」というテーマが複数ある)
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
教出	各学年の「学び合う音楽」では表現方法について考えることで、どのように歌うかについて仲間と取り組むことができる。
教芸	音楽づくりでは仲間との協働活動とおとした実践が紹介されている。特に低学年では相手の歌や動きをまねる、遊びをメインとした題材が掲載されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	「学び合う音楽」の項目では、仲間と表現の工夫を深められるよう、（第5学年23ページのように）学習の手順や話し合うテーマが例示されている。
教芸	見通しを持った学習ができるよう、巻頭に見開きで「木のイラスト」が描かれており、表現、鑑賞それぞれの系統性が「学びの地図」として示されている。

② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	「他教科との関連等」について、歌唱・鑑賞活動の中で英語や算数(第2学年60ページの九九の歌)などと関連させた題材が設定されている。
教芸	「他教科との関連等」について、外国語を取り入れた教材が各学年に設定されている。第1・2学年では軽い運動を伴った題材(63、68ページ)も掲載されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
教出	言語活動に関して「学びナビ」によって話し合い活動の進行が例示されている。また「音楽のもと」や「音楽を表すいろいろな言葉」などによって、「音楽の要素」を表す用語がまとめられている。
教芸	板書例が示されており、鑑賞では「気づいたこと、感じ取ったこと」を分類して記入する欄が掲載されている。また、曲を聴き比べた感想を発表する活動例が示されている。

④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
教出	日本の音楽に関連する単元では、太鼓の体験やリコーダーでの実践例が挙げられている。また、童歌に手遊びを取り入れている。
教芸	日本の伝統芸能や童謡について、文化的背景や歌詞の意味が説明されている。併せて童謡に関連する手遊びも掲載している。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
教出	「音のスケッチ」では、コードや音階の学習が設定されている。また指揮の体験をとおして2拍子と3拍子の違いを感受し、歌唱表現に関連付けられるような教材が掲載されている。
教芸	和楽器の口唱歌や民謡の節回しが紹介され、日本音楽に対する体験学習が充実している。また、音程感覚の基礎としてハンドサインを用いたり、風船の高さによってイメージさせる例も示されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
教出	第6学年では「はってん中学」というロゴで全休符を掲載し、鑑賞では雅楽や箏の取組を体験できるよう掲載されている。
教芸	第5・6学年では合唱の形態、男声パートの役割、変声期の発声方法について掲載されており、中学校へのつながりとしている。

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
教出	「情報活用」に関して、「日本の民謡(5年p37)」について、その役割を調べる際に図書館やインターネットの活用を推奨している。ルールやマナーについて注意喚起している。
教芸	「情報活用」に関して、もくじの右下には、二次元コードを参考資料に活用することを推奨しながら、「指導者・保護者の皆様へ」として、使用の際には保護者と一緒に利用する旨を掲載している。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
教出	発達の段階に応じたフリガナや、透明シートが設定してあることで学びの展開が可能。落ち着いた色調を使用することで、色覚の特性に応じた配色で印刷されている。
教芸	楽譜を白地にしたり、縦書きの歌詞を写真の無地の上に白抜きで文字で配するなど、色覚特性に対応した配色が工夫され、ユニバーサルデザインが使用されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
教出	「学びナビ」や「音のスケッチ」、「音楽のもと」といった項目によって、学年間での既習内容に系統性がある。鍵盤ハーモニカの運指や音階の配色が区別されている。
教芸	学年間で既習内容を積み重ねられるよう教材が設定されている。器楽では、リコーダーの運指がわかりやすいように奏者の視点で掲載されており、新出の運指は小口に掲載されている。

⑩ 表現や鑑賞の教材は、多様な音楽の中から、児童の発達の段階に応じて適切に選択されているか。	
教出	表現の学習では、前学年での既習内容を踏まえた教材が設定されている。また鑑賞では第1・2学年での身体表現を中心として音楽を感受する活動から、第5・6学年での曲想や構造を関連させて理解する学習へと、段階を追って設定されている。
教芸	第1・2学年の歌唱教材は、歌詞のみを読む歌唱から、第5・6学年では読譜を見て歌唱し、歌詞と音楽の要素の関連から表現方法を工夫する活動へと発展している。また、鑑賞では第1・2学年の遊びなどの「拍子の認識」から、打楽器など「楽器の音色を感受する」、オーケストラでは「曲の構成を理解する」学習へ内容が深まっている。

⑪ 我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に関する工夫や配慮。	
教出	お祭りや締め太鼓のリズムを楽しむ活動が体験でき、第5・6学年では箏や尺八から和楽器の響きを学ぶ。また篠笛の音色や奏法の学習へと発展させている。
教芸	身近な伝統楽器の音楽である太鼓や祭り囃子の体験が示されている。また雅楽や箏の音色を鑑賞することで、和楽器の響きを味わう学習が設定されている。

⑫ 表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞、【共通事項】の学習内容を相互に関連させながら取り扱う為の工夫や配慮。	
教出	表現、鑑賞共に紙面右上に音楽の要素が示されている。また巻末の「音楽のもと」では音楽の要素となる語句をまとめて掲載している。小口には新出の音符や休符が掲載されている。
教芸	表現、鑑賞共に紙面右下には音楽の要素が示されている。巻末の「振り返りのページ」には、本編と同様の部分が抜き出しで、一覧できるように掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	主要部分と選択可能部分との割合が対照的に掲載されている。また、学習をサポートする「学びナビ」や「音楽のもと」などもコンパクトに挿入されている。
教芸	「音楽の木」では、すべての領域における学びの関連性が、学年ごとに描かれている。また、第4学年（10～17ページ）のように一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、と系統立てて学習する構成である。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
教出	全学年を通じて、巻頭には演奏家のメッセージが見開きで掲載されている。また、左上に題材名、右上には「音楽のもと」、右端には「新出事項」といった掲載のパターンが統一されている。
教芸	文字の色や背景の色調が細かく決められている。楽譜の背景は白地に統一されるなど、ユニバーサルデザインが施されている。また各ページの左上には学習目標が掲載され、周囲の文字よりも大きなフォントで強調されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	第6学年の「箱根八里」では、歌詞の意味が解説され、箱根山や杉並木、関所の写真が掲載されている。
教芸	第3学年の「富士山」では、芦ノ湖から見た富士山の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	教出			教芸		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	有	有	有	有	有	有

③ 一冊ごとの重量（g）							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教出	6	172	172	204	196	204	196
教芸	6	178	178	181	181	181	181